



子どもの居場所づくり（2） 石巻小学校プール指導

今夏 YMCA 石巻支援センターでは、石巻小学校のプール開放日に、合計10日間・4期にわたって（社会体育保育専門学校3期、医療福祉専門学校1期）、スタッフ・ボランティア合わせて計30名を派遣しました。この夏休みに YMCA のプール指導に来た子どもたちは計 1260 名にもなります。

プールでは、YMCA スタッフ・ボランティアが水泳指導を行ったり、自由に子どもの遊び相手になったりしました。

石巻小の夏休みのプール開放日は、子どもたちの数少ない遊び場です。近隣の施設は震災によりいまだに使用不可能なものも多く、子どもたちは遊び場を求めてプールに集まってきます。全校生徒 299 人の石巻小の児童が、多い日は午前午後合わせて 200 人以上もプールに集まるこの現状は、いかに子どもが他に遊ぶところが無いかを物語っています。

小学校職員は体制的にプールに1日に1人の担当しか置けないので、これだけの数の子どもの面倒を見るのは大変です。YMCA が派遣されたことで、子どもは楽しめるし安心できると先生に仰って頂きました。



上：プールサイドに座って基礎練習（8月6日）

社会体育保育専門学校からは、学校で約1年半の指導経験を持つ2年生が参加しました。実習とは違う指導形態に戸惑いつつも、2日間ないし3日間で引率の先生とともに試行錯誤を繰り返すうちに、彼ら自身も多く事を気づき、学びました。

被災した子どもたちは、遊び場では元気な姿を見せても、日頃色々な場面で我慢をしています。身内や住む所を無くした子どもも少なくなく、家に帰ると「寂しい」「狭い」「退屈」思いをしている場合も少なくありません。しかし、小学生ともなると、子どもなりに周囲を気遣って、自分の不安や不満をあえて口に出さない子どもも少なくありません。

子どもは、そのように日常的に抑えている気持ちを、自分と本気で向きあってくれる青年と交わる中で開放することができるようになります。夏休み終盤に差し掛かると、「ねえ、今日は〇〇リーダーいないの？また会いたい！」「来年も絶対に来てね！私はもう卒業だけど私たちの後輩のためにも、絶対に」と、子どもたちからリーダーとの別れを惜しむ声が聞こえてきました。子どもにとって、青年たちの存在が「居場所」になった証でしょう。子どもが子どもらしく遊べる環境を整えることが、私達ができる心のケアなのかもしれません。

※石巻小でのプールボランティアは、8月23日付け石巻日日新聞に掲載されました。



上：障がいを持つ子どももリーダーと一緒に（8月21日）
下：子どもはいつでも本気（7月25日）



東日本大震災救援復興募金

- ・ゆうちょ銀行（郵便振替）
振替口座：00120-7-714728
名義：公益財団法人 東京 YMCA
- ・銀行振り込み
みずほ銀行 神田支店 普通 1677931
三井住友銀行神田支店 普通 7656469
名義：公益財団法人 東京 YMCA
※「東日本震災」とお書き添えください。